

研究タイトル：

夏目漱石文学におけるメディアの問題



氏名：高槻 侑吾／タカツキ ユウゴ E-mail: takatsuki@tokuyama.ac.jp

職名：准教授 学位：修士(文学)(立命館大学)

所属学会・協会：日本近代文学会，日本近代文学会九州支部，全国大学国語国文学会，日本文学協会，日本文芸学会，九州大学日本語文学会，全国大学国語教育学会，日本高専学会

キーワード：日本近現代文学・文化，比較文学・文化，夏目漱石，新聞小説，メディア，言説，受容，読者

技術相談提供可能技術：
 ・夏目漱石とその作品について
 ・日本の近現代文学や文化について
 ・文学と社会やメディアとの関わりについて

研究内容：

1) 現在の研究課題の概要

『朝日新聞』(東京・大阪)に掲載された夏目漱石の作品を対象に、主に以下の四つの視点から分析を進めています。

- ① 作中に登場する絵画との連関……作中の絵画が小説の描写や展開とどのように関わっているのか
- ② 同時代の言説・社会状況との相関……歴史的な出来事がどのように作中に取り込まれ、表象されているのか
- ③ 発表媒体との影響関係……雑誌と新聞で異なる読者像が作品の生成にどのように影響しているのか
- ④ 同時代・後代における受容……個々の作品が同時代・後代の読者によってどのように読まれてきたのか

以上のような視点から個々の作品とさまざまなメディアとの関わりを検討しています。(下記概念図もご参照ください)

2) 具体的な研究手法について

研究手法としては、テキストを注釈的に精読し、細部から立ち上がる問題を実証的に論じるスタイルを採っています。例えば、「三四郎」に登場する絵画(ヴェラスケスの模写)について、最新版の『漱石全集』の注解(注釈)で言及されていない美術資料を手がかりに東北大学附属図書館漱石文庫で調査を行い、モデルを確定させたくうえで作品の読み直しを行いました(⇒視点①)。こうした作業を続けることを通して、作品の新たな〈読み〉の可能性を探っています。

3) 主な学会発表・論文

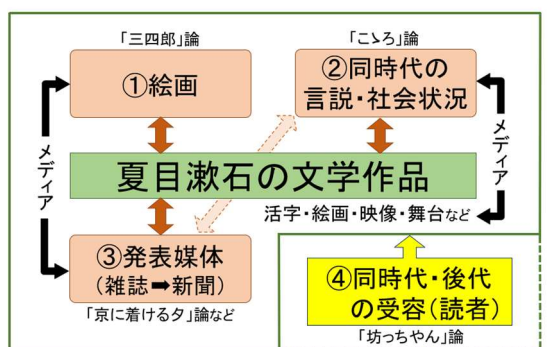
【学会発表】

- (1) 「絵を掛け替えるということ―「三四郎」試論―」
(日本近代文学会 2017 年度春季大会, 2017 年 5 月 27 日)
- (2) 「昭和二十一年の「坊っちゃん」―雑誌『苦楽』創刊号の「名作絵物語」をめぐって―」(日本近代文学会九州支部 2017 年度秋季大会, 2017 年 10 月 21 日)

【論文】

- (1) 「「ころ」の告別―『三太郎の日記』の一節を補助線として―」
(『九大日文』30, 2017 年 3 月)
- (2) 「「京に着ける夕」の光景―『夜の京阪』を参照項として―」
(『九大日文』33, 2019 年 3 月)

現在の研究課題の概念図



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	
なし	